

間抜けな墓など無い



以前、妻と近くのイオンモールへお昼を食べに行った時、急に大事なことを思い出したような口ぶりで「私、旅行会社でパンフレット貰ってくる！」と足早に向かった。そのお店の入口付近には海外旅行も含め多くのパンフレットが並んでおり、お互いお寺の仕事で旅行など縁が無いけど、眺めていると私も心ウキウキしてしまい一瞬だけど淡い夢心地になった。恐ろしき旅行会社の技！お浄土への旅立ちパンフレットも作ってくれないものか？ そんな私の横で妻は国内旅行の、それも「温泉旅」だけを何枚も手にしている。「帰ったら墓地の無縁佛さまたちにお供えするの」と妻は言う。

妻は毎朝4時か5時には起きて、境内の佛さま方やお稲荷さんなど神さま方や銀杏の大樹、お墓で、亡くなりなられた靈と話を2時間ほどかけて聞いて回っているようで、その会話を住職である私に時々教えてくれる。後日に檀家さんへお参りに行った時に役に立つことがある。手を合わせたら、自分の願いや思いを言うではなく、「聞く」ことが大事だという。その日の無縁佛さんは「温泉旅行に行きたい」とお話しになつたそうだ。当寺の墓地の横はJR東海道本線で、そこを飛驒高山と信州長野へ行く特

急列車が往来している。電車のなかで温泉旅行へいく人たちが本当に楽しそうだから羨ましい！行きたい！」という願いを聞きパンフレットをお供えさせていただいたという次第。そんなお供えで満足されるの？ それがたいへんお喜びになるのです。それ以前も、「どぶろく」を友人7名と車座になって呑みたいとか、両切りの巻ピースを吸いたいなど、それらを探すのが大変だったこともあった。無理なご要望の時ははっきりお断り申し上げることも大事なこと。最近良く耳にする「墓じまい」という言葉には哀しさを感じます。不景気になって「店じまい」と一緒にしてほしくない。



左の写真は、昨年愛知県で開催された『表現の不自由展 その後』で、「慰安婦像」、「昭和天皇の肖像写真をバーナーで燃やし、足で踏みつける映像」と共に特に問題視された作品（？）です。かまくら型の墓（？）に特攻隊員の寄せ書きを張り付け、ご丁寧にしめ縄までしてあります。この作品（？）の題名が『間抜けな日本人の墓』です。表現の自由と言いつつも国内すべての戦没者、遺族を冒涜したものとしか受け取られません。死者をお祀りする墓が芸術作品の材料になどありえない。また、これら問題視されそうな出展作品を隠して申請し、「公」の機関から多額（8億円弱）の助成金を得て開催し、その責任者である大村愛知県知事が先日リコール請求をされた。 俊徳丸